

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

実施年度	平成28年度		
基本目標	4	地域資源を活かした「魅力あるしま」をつくる	
施策名	(2)	魅力ある観光地を創り、国内外から人を呼び込む	
	3	国内・海外からの誘客戦略の展開	
事業名	①	しまのキャンパス体験事業【拡充】	
担当課名	観光商工課		所属長名 安 永 佳 秀
関係課名			

1. 事業の目的						
○島外からの修学旅行や文化スポーツ合宿等は、本土からの高い運賃が主な阻害要因となり費用が高額となるため、本町では実施しにくい状況である。これらの助成措置として往復の運賃、宿泊費、体験学習料の一部を助成し、交流人口の拡大を図る。						
2. 事業の概要			3. 実施内容（取組状況）			
○修学旅行推進事業 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び高等専門学校 ・修学旅行生1人あたり1泊目7,500円、2泊目以降は1人あたり2,500円を加算して補助 ○島外団体誘致推進事業 ・文化スポーツ合宿等を実施する小中高校生及び大学生で構成する10人以上の団体、文化スポーツ合宿等を企画実施する旅行会社 ・児童、生徒及び学生1人あたり2,000円を補助 ○H28年度から2泊目以降についても1泊あたり1,000円を助成することで制度拡充			○島外からの文化スポーツ合宿等の団体 44団体に3,418千円を助成。 ○宿泊者実数 1,264人 ○延宿泊人数 2,386人			
	実績額	国費	県費	起債	その他	一般財源
事業費	3,418千円					3,418千円
4. 事業における成果			5. 事業における課題			
○本事業の補助制度を活用した誘客活動により多くの島外学生団体に文化スポーツ合宿等で来島して頂いた。			○本補助制度を活用し、文化スポーツ合宿等で多くの学生に本町に来島していただいた。修学旅行については、島特有の海上航路や宿泊施設等に課題があり、誘客しづらい状況である。			
6. 課題解決に向けての今後の取り組みについて						
○本土からの高い運賃が主な阻害要因となり旅行費用が高額となるため、旅行費用を一部補助する本事業は誘致活動にかなり効果的であり、今後も誘致活動を積極的に展開していく。また、体験メニュー等の新たな観光資源の開発などに努めていく。						

担当課評価	B	○修学旅行（宿泊を伴うもの）の誘致には繋がらなかったが、文化スポーツ合宿等で目標（1,000人）以上に多くの学生に来島していただくことができたので、今後も継続して事業を推進する。
委員評価	B	○2次評価のとおり

評価基準	A	KPI達成に非常に有効であり、このまま継続して事業を推進する。
	B	KPI達成に有効であり、継続して事業を推進する。
	C	KPI達成のために、要因の分析を要する。
	D	KPI達成のために、要因の分析と事業の見直しを要する。
	E	事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

実施年度	平成28年度		
基本目標	4	地域資源を活かした「魅力あるしま」をつくる	
施策名	(2)	魅力ある観光地を創り、国内外から人を呼び込む	
	3	国内・海外からの誘客戦略の展開	
事業名	②	首都圏大学生誘致事業	
担当課名	総合政策課		所属長名 小柳 哲也
関係課名			

1. 事業の目的						
○若者を島へ呼び込み、島の魅力の発信や島おこし等につなげ、交流人口の拡大を図ることを目的とする。						
2. 事業の概要				3. 実施内容（取組状況）		
○大学生や短大生等の学生が在学中に本町の事業所で行う就業体験（インターンシップ）について、旅費の一部を補助し、また、学生を受け入れた事業所に対し、受入れ謝礼を交付する。 ○首都圏大学生誘致補助金 1万円/1人 ○受入事業所謝礼 5万円/1事業所				○平成28年度実績 ・首都圏大学生誘致補助金 6名（6万円） ・受入事業所謝礼 2事業所（10万円） ・期間は、14日間～17日間		
	実績額	国費	県費	起債	その他	一般財源
事業費	160千円					160千円
4. 事業における成果				5. 事業における課題		
○従来の首都圏大学のPR活動による誘致では効果がなかったため、インターンシップの学生にターゲットを絞り、島外の大学生に来島してもらい、島おこし等に貢献することができた。 ○5大学から6名の学生が2事業所で就業体験を行った。				○本事業は観光目的で首都圏大学生を誘致していたが、近年は、観光ではなく学びの場として島を求める学生が増える。そのため、観光ではなく就業体験を通じて島を知りたいという大学生のニーズに対応するため、町内すべての事業者が受入事業所となるよう要件を緩和する必要がある。		
6. 課題解決に向けての今後の取り組みについて						
○観光ではなく就業体験を通じて島を知りたい大学生が増えており、そのニーズに対応するため町内すべての事業者が受入事業所となるよう要件の見直しを行う。						

担当課評価	C	○大学生のニーズに対応するため、町内すべての事業者が受入事業所となるよう要件の見直しを行う。
委員評価	C	○2次評価のとおり

評価基準	A	KPI達成に非常に有効であり、このまま継続して事業を推進する。
	B	KPI達成に有効であり、継続して事業を推進する。
	C	KPI達成のために、要因の分析を要する。
	D	KPI達成のために、要因の分析と事業の見直しを要する。
	E	事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

実施年度	平成28年度		
基本目標	4	地域資源を活かした「魅力あるしま」をつくる	
施策名	(2)	魅力ある観光地を創り、国内外から人を呼び込む	
	3	国内・海外からの誘客戦略の展開	
事業名	③	外国人観光客誘致推進事業	
担当課名	観光商工課	所属長名	安 永 佳 秀
関係課名			

1. 事業の目的						
○「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」のユネスコ推薦を受け、外国からの上五島へのカトリック教徒を中心とした巡礼ツアーが増えている。海外からの団体を中心とした巡礼ツアーの推進するため、旅行会社(ツアー費)に渡航費用などの一部を助成し、交流人口の拡大を図る。						
2. 事業の概要				3. 実施内容（取組状況）		
○外国人観光客誘致推進事業補助金 ・海外からの送客(5人以上団体)旅行会社に団体旅行造成経費の一部を助成 ・町内の宿泊施設に宿泊した者1名につき3,000円を乗じた金額を助成				○平成28年度上五島外国人来訪者数 ・中国46人、香港2人、スイス3人、タイ5人、韓国727人、他2人 ○うち、平成28外国人誘客事業費補助金利用者数 ・26団体、577人、1,731千円		
	実績額	国費	県費	起債	その他	一般財源
事業費	1,731千円					1,731千円
4. 事業における成果				5. 事業における課題		
○熊本震災の影響により平成27年度実績に比べて、大きく実績は下がっているが、確実に誘客に繋がっている。 (参考) ・H27申請件数 31件、 ・H27補助対象旅行者数900人、 ・H27補助金交付額 2,700千円				○町内における外国人観光客は、韓国からのキリスト教巡礼客が大多数を占めている。巡礼客は比較的马ナーがよく、五島に対して発展してほしいという願いをもって来島している。旅行会社を通じ、経済的な形で来島するが、地元信者や地元住民とのつながり等、交流人口拡大につなげていきたい。		
6. 課題解決に向けての今後の取り組みについて						
○長崎県内はキリスト教関連遺産が多いため、事業を継続し、長崎の巡礼地域プラス上五島を確立させていく。また、巡礼プラス地元との交流を視野に入れた、宿泊地の民泊プランの導入や夏休を利用した韓国からの子ども達の受入・体験交流等、交流人口拡大に取り組むシステムを構築する。						

担当課評価	B	○旅行会社を通じて巡礼ツアーを行う団体向けの制度であり、旅行会社からの誘致も巡礼ツアーを増やす要員となっている。今後、巡礼だけではない上五島の魅力を含めたツアーに発展させる可能性を秘めている。
委員評価	B	○2次評価のとおり

評価基準	A	KPI達成に非常に有効であり、このまま継続して事業を推進する。
	B	KPI達成に有効であり、継続して事業を推進する。
	C	KPI達成のために、要因の分析を要する。
	D	KPI達成のために、要因の分析と事業の見直しを要する。
	E	事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

実施年度	平成28年度		
基本目標	4	地域資源を活かした「魅力あるしま」をつくる	
施策名	(2)	魅力ある観光地を創り、国内外から人を呼び込む	
	3	国内・海外からの誘客戦略の展開	
事業名	④	パートナーシップ協定事業【新規】	
担当課名	観光商工課	所属長名	安 永 佳 秀
関係課名			

1. 事業の目的						
○本町と関連のある日本を代表する企業が持つ情報発信力や店舗を活用し、観光と物産の振興、地元の雇用促進、知名度向上を図り、地域経済の活性化につなげることを目指し、相互の業務連携を図る。						
2. 事業の概要				3. 実施内容（取組状況）		
○パートナーシップ協定に基づき下記の項目について事業を行う。 ・新上五島町の魅力を全国へ情報発信 ・食を中心とした総合的な調査研究及び情報提供 ・食を通じた地域活性化 ・町内観光と物産の活性化に関する調査研究及び企画提案 ・地元雇用促進に関する調査研究及び企画提案 ・町内宿泊動向調査研究及び宿泊施設の企画提案				○際コーポレーション(株)とのパートナーシップ協定に基づき、事業を実施するため業務委託契約を締結し、新上五島町の知名度向上に取り組むとともに、ホテルマルゲリータにおいて宿泊者へのアンケート実施に取り組んだ。 ・町の情報発信事業 ・生産者交流事業 ・メディアを活用したPR事業 ・宿泊者市場調査		
	実績額	国費	県費	起債	その他	一般財源
事業費	9,950千円	4,719千円		4,700千円		531千円
4. 事業における成果				5. 事業における課題		
○際コーポレーション(株)の展開する東京を中心とした飲食店において、上五島の食材を使ったイベントやフェアを実施するとともに、店舗の料理人と地元生産者との交流を実施し情報交換や新たなメニューの開発を行った。また情報発信ツールの作成や、マスコミへのPRなどにより新上五島町の知名度向上に繋がった。				○事業を通じて、首都圏を中心に町の情報発信を実施できたことにより、知名度向上が図られたが、今後は雇用に関する事業を実施していく必要がある。		
6. 課題解決に向けての今後の取り組みについて						
○今後も引き続き、本町の観光や食などの魅力を情報発信していくとともに、雇用に関する事業についても検討を行っていく。						

担当課評価	B	○事業を通じて、首都圏を中心に町の情報発信を実施できたことにより、知名度向上が図られており、今後も継続して事業を実施する。
委員評価	B	○2次評価のとおり

評価基準	A	KPI達成に非常に有効であり、このまま継続して事業を推進する。
	B	KPI達成に有効であり、継続して事業を推進する。
	C	KPI達成のために、要因の分析を要する。
	D	KPI達成のために、要因の分析と事業の見直しを要する。
	E	事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

実施年度	平成28年度		
基本目標	4	地域資源を活かした「魅力あるしま」をつくる	
施策名	(2)	魅力ある観光地を創り、国内外から人を呼び込む	
	3	国内・海外からの誘客戦略の展開	
事業名	⑤	510列島まつり運営負担金事業	
担当課名	観光商工課		所属長名 安 永 佳 秀
関係課名			

1. 事業の目的						
○5月10日（510＝ごとう）にあわせ、五島市と新上五島町が連携し、五島の魅力（特産品、食、伝統芸能等）を長崎へ凝縮して持って行き、来場者の目・耳・胃袋に五島列島をアピールすることで、観光客の誘致と特産品販売につなげる。						
2. 事業の概要				3. 実施内容（取組状況）		
○島外で、五島市と新上五島町の観光PRと特産品の販売及び郷土芸能を披露するなど、五島列島の魅力をアピールする。				○5月13日（金）～15日（日）の3日間で開催。 ○夢彩都横おくんち広場		
	実績額	国費	県費	起債	その他	一般財源
事業費	1,076千円					1,076千円
4. 事業における成果				5. 事業における課題		
○来場者数 16,800人 ○特産品販売額 10,060千円				○長崎市内における「五島」の知名度は、ある程度浸透してきたので、事業内容の見直しや、新たな場所での開催を検討する必要がある。		
6. 課題解決に向けての今後の取り組みについて						
○今後も五島市と連携して、開催場所の変更も視野に入れた事業内容の見直しを行う。						

担当課評価	B	○本イベントを開催することによって、観光客誘客及び物産振興が図られており、今後も継続して事業を実施する。
委員評価	B	○2次評価のとおり

評価基準	A	KPI達成に非常に有効であり、このまま継続して事業を推進する。
	B	KPI達成に有効であり、継続して事業を推進する。
	C	KPI達成のために、要因の分析を要する。
	D	KPI達成のために、要因の分析と事業の見直しを要する。
	E	事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

実施年度	平成28年度		
基本目標	4	地域資源を活かした「魅力あるしま」をつくる	
施策名	(2)	魅力ある観光地を創り、国内外から人を呼び込む	
	3	国内・海外からの誘客戦略の展開	
事業名	⑥	辻発彦杯少年野球大会交流事業	
担当課名	生涯学習課		所属長名 宇戸 佐 一 郎
関係課名			

1. 事業の目的						
○健全で明朗な人間力豊かな人材の育成と体位体力の向上、スポーツの振興・発展を目指し、野球を通じて自立と協力・協調性の精神を育むとともに、地域の親善交流を図ることを目的とする。						
2. 事業の概要				3. 実施内容（取組状況）		
○少年野球大会の開催 ○キャッチボールクラシックの開催 (日本プロ野球選手会が考案した、野球の最も基本となるキャッチボールの正確さとスピードを競うゲーム)				○辻発彦杯争奪少年野球大会実行委員会に569千円を補助した。 ○町内5チーム及び長崎市1チームの計6チームによる大会を開催。 ・大会の実施 ・キャッチボールクラシックの実施		
	実績額	国費	県費	起債	その他	一般財源
事業費	569千円					569千円
4. 事業における成果				5. 事業における課題		
○3回目にして島外(五島市を除く)からの参加があり、島外チームとの交流を図ることが出来た。				○案内した学校から、部員不足や対外試合等の過密化により辞退があったので、案内方法を見直す必要がある。		
6. 課題解決に向けての今後の取り組みについて						
○日程の固定化と早めの案内周知に努める。						

担当課評価	C	○県内の中学校においては、部員不足により単独校での対外試合が出来なくなった学校が増えている状況から、中学校の動向を見ながら、大会企画の見直しが必要である。
委員評価	C	○2次評価のとおり

評価基準	A	KPI達成に非常に有効であり、このまま継続して事業を推進する。
	B	KPI達成に有効であり、継続して事業を推進する。
	C	KPI達成のために、要因の分析を要する。
	D	KPI達成のために、要因の分析と事業の見直しを要する。
	E	事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

実施年度	平成28年度		
基本目標	4	地域資源を活かした「魅力あるしま」をつくる	
施策名	(2)	魅力ある観光地を創り、国内外から人を呼び込む	
	3	国内・海外からの誘客戦略の展開	
事業名	⑦	トライアスロンin上五島大会補助事業	
担当課名	生涯学習課		所属長名 宇戸佐一郎
関係課名			

1. 事業の目的						
○地域住民が主体となり組織する実行委員会が、地域の活性化と交流人口の拡大を図ることを目的として開催する。大会の経費の一部を補助する。						
2. 事業の概要			3. 実施内容（取組状況）			
○トライアスロンin上五島大会実行委員会へ事業費の一部を補助する。 ○トライアスロン大会の開催 ・スイム2km、バイク42km、ラン12kmの合計56km ・レギュラー部門 ・リレー部門 ・アクアスロン部門			○トライアスロンin上五島大会実行委員会へ事業費の一部を補助した。1,200千円 ○大会参加者 ・レギュラー部門 67人 ・リレー部門 36人 ・アクアスロン部門 10人 計113人 ・参加スタッフ 846人			
	実績額	国費	県費	起債	その他	一般財源
事業費	1,200千円					1,200千円
4. 事業における成果			5. 事業における課題			
○婦人会や消防団、ボランティアスタッフによる運営は、地域の活性化に貢献している。 島外からの参加が多数であることから、交流人口の拡大に繋がり、新上五島町をPRすることができた。			○大会を支える各種団体、ボランティアスタッフの高齢化と参加者数の伸び悩みが課題である。			
6. 課題解決に向けての今後の取り組みについて						
○町内広域での協力体制を築くことにより、大会を支えるスタッフの確保に取り組む。						

担当課評価	A	○住民が一体となりボランティアスタッフとして大会を支えており、町も支援する必要がある。
委員評価	A	○2次評価のとおり

評価基準	A	KPI達成に非常に有効であり、このまま継続して事業を推進する。
	B	KPI達成に有効であり、継続して事業を推進する。
	C	KPI達成のために、要因の分析を要する。
	D	KPI達成のために、要因の分析と事業の見直しを要する。
	E	事業自体の抜本的見直しを要する。